



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月9日

上場会社名 ナカバヤシ株式会社 上場取引所 東
コード番号 7987 URL <https://www.nakabayashi.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 湯本 秀昭
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理統括本部経理部長 (氏名) 西内 宏志 TEL 06-6943-5555
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	44,350	△0.9	△383	—	77	△73.5	164	—
2023年3月期第3四半期	44,745	△1.5	△109	—	291	△76.5	△51	—

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 186百万円 (45.4%) 2023年3月期第3四半期 128百万円 (△78.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	6.01	—
2023年3月期第3四半期	△1.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	58,973	26,478	43.8
2023年3月期	57,703	26,881	45.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 25,802百万円 2023年3月期 26,204百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2024年3月期	—	10.00	—		
2024年3月期（予想）				12.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	65,000	5.6	2,550	459.3	3,000	219.4	1,700	—	61.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	28,794,294株	2023年3月期	28,794,294株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	1,357,417株	2023年3月期	1,388,104株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	27,424,647株	2023年3月期3Q	27,393,825株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる仮定及び業績予想に関する注記事項等につきましては、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
3. その他	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年12月31日）におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな持ち直しの動きがみられました。一方、原材料価格の高騰やロシア・ウクライナ情勢の長期化、外国為替相場での円安傾向など、外部環境の変動により景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境は、ライフスタイルや企業活動が大きく変化したこともあり、製品やサービスの改革を遂行しておりますが、引き続き厳しい状況が続いております。

このような中、当社グループは2023年11月にパーパス「It's for SMILE ～価値ある商品・サービスで社会を明るく笑顔に～」を制定しました。「人生100年時代」を迎える現代社会において、当社が社会課題の一つでも解決することにより、健康かつ文化的で明るく元気な未来を「It's for SMILE」で描いてまいります。

また、ミッション・ビジョンである「生命関連産業」（注）のリーディングカンパニーを目指した既存事業の強化や新規事業への参入、そして最終年度を迎えた第3次中期経営計画（2021年4月1日～2024年3月31日）「add+venture 70」（アドベンチャー70）の計画達成及びグループ全体として経営資源の最適配分、事業セグメント間やグループ会社間のシナジー創出などに取り組んでおります。

（注）「生命関連産業」とは、京都大学の広井良典教授が提唱している概念

具体的には次の5つの分野（1）健康・医療（2）環境（再生可能エネルギーを含む）（3）生活・福祉（4）農業（5）文化を指します。

売上高は前年同四半期比0.9%の減収となりました。原材料価格や円安傾向が継続する中、原価率改善や経費の圧縮に努めましたが営業損失となり、経常利益も減益となりました。また、特別利益は投資有価証券売却益4億78百万円など4億81百万円を計上し、特別損失は固定資産処分損15百万円など19百万円を計上いたしました。

この結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億64百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は下記の通りであります。

売上高	443億50百万円	（前年同四半期比 0.9%減）
営業損失	3億83百万円	（前年同四半期営業損失1億9百万円）
経常利益	77百万円	（前年同四半期比73.5%減）
親会社株主に帰属する四半期純利益	1億64百万円	（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失51百万円）

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①ビジネスプロセスソリューション事業

図書館ソリューション業務は公共図書館からのカウンター業務等アウトソーシング業務の受注が順調に推移しました。またDPS（データプリントサービス）も官公庁からの入札案件の再獲得や企業活動の活発化により各種印刷発送業務が引き続き好調に推移しました。このような中、前期に完全子会社化した日本通信紙株式会社は、資格試験等の運営業務におけるPC端末を利用した試験手法（CBT）や、更に普及が見込まれるインターネットテスト（IBT）の提案を推進しておりますが、自治体からBPO業務（マイナポイントや各種交付金業務）の受注が競争激化により低調に推移しました。引き続き、製造部門の合理化、営業部門の効率化を推進しグループシナジーを高めて、人材不足、働き方改革など社会を取り巻くビジネス環境をトータルにサポートする『BPO総合支援サービス』の展開に努めます。

紙器包材等パッケージ分野においては、高品質な紙製重箱「JIYUBACO」が年末年始向け家庭用おせち料理用途で売上が増加しました。パッケージの企画・印刷を手掛ける不二工芸印刷株式会社は、生活用品向けのパッケージを中心に売上が好調に推移しました。また、シール・ラベル業務も、エンタメ・アミューズメント業界向けの売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は231億49百万円（前年同四半期比0.2%増）、営業利益は1億73百万円（前年同四半期比58.9%減）となりました。

②コンシューマーコミュニケーション事業

市販製品のOEM受注や事務用品は好調に推移しました。PC関連製品、スマホ・タブレット関連アイテムは引き続き新製品の投入に努めました。また2024年1月1日付で当社の連結子会社である株式会社ミヨシ及びびりベックス株式会社を吸収合併しました。今後は更に商品価値やブランド力の向上を図ってまいります。

一方、企業におけるペーパーレス化の流れやGIGAスクール構想の浸透で文具事務用品の売上は減少しました。新たなツーリズム支援施策として取り組みを始めためぐりingビジネスは、全国旅行支援や外国人観光客の回復に伴い、御朱印帳や御城印帳、テーマパークや土産店向けの売上が引き続き増加しました。

手帳は市販製品のOEM受注が好調に推移、市販向けカレンダーはラインアップの拡充に努めました。

ベッド・マットレス・インテリア等ネット販売を展開する株式会社ビックスリーは、法人向け営業の売上が減少し、原材料価格の高騰と円安傾向の継続によって原価率が上昇したため低調な結果となりました。

この結果、当事業の売上高は145億95百万円（前年同四半期比5.7%減）、営業損失は4億63百万円（前年同四半期営業損失3億99百万円）となりました。

③オフィスアプライアンス事業

シュレツダ事業は、社会経済活動の正常化に伴い中小型オフィスシュレツダやHDD・SSD等メディア破砕機の売上、保守点検業務の受注が好調に推移しました。また、オフィス家具のEC事業を展開するカグクロ株式会社は、オフィスへの出社回帰の動きにより売上が伸長、価格改定もあり増益となりました。

この結果、当事業の売上高は54億26百万円（前年同四半期比8.1%増）、営業利益は1億92百万円（前年同四半期比291.3%増）となりました。

④エネルギー事業

木質バイオマス発電は、5月に実施した法定点検の影響で稼働日数が減少しており、営業利益が減少しております。太陽光発電は順調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は11億21百万円（前年同四半期比1.4%増）、営業利益は29百万円（前年同四半期比49.5%減）となりました。

⑤その他

野菜プラント事業及びにんにくファーム事業等であり、売上高は56百万円（前年同四半期比63.3%増）、営業損失は33百万円（前年同四半期営業損失19百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて12億23百万円増加し、311億16百万円となりました。これは商品及び製品が12億68百万円、仕掛品が2億71百万円、原材料及び貯蔵品が1億85百万円それぞれ増加しましたが、受取手形及び売掛金が4億73百万円、現金及び預金が57百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて46百万円増加し、278億57百万円となりました。これは建物及び構築物が4億95百万円増加しましたが、機械装置及び運搬具が2億14百万円、投資有価証券が1億51百万円それぞれ減少したことなどによります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べて12億70百万円増加し、589億73百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて19億25百万円増加し、198億1百万円となりました。これは短期借入金が15億80百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2億52百万円減少し、126億93百万円となりました。これは長期借入金が2億47百万円減少したことなどによります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて16億73百万円増加し、324億95百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4億3百万円減少し、264億78百万円となりました。これは為替換算調整勘定が63百万円増加しましたが、利益剰余金が4億38百万円減少したことなどによります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は43.8%となり、前連結会計年度末に比べて1.6ポイント低下いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月12日発表時の通期連結業績予想の修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,871	7,814
受取手形及び売掛金	10,304	9,831
商品及び製品	6,195	7,464
仕掛品	955	1,227
原材料及び貯蔵品	1,785	1,971
その他	2,781	2,808
貸倒引当金	△2	△0
流動資産合計	29,893	31,116
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,117	7,613
機械装置及び運搬具（純額）	4,958	4,743
土地	9,863	9,863
建設仮勘定	147	73
その他（純額）	188	182
有形固定資産合計	22,274	22,476
無形固定資産		
のれん	108	27
その他	280	289
無形固定資産合計	388	317
投資その他の資産		
投資有価証券	2,834	2,683
退職給付に係る資産	876	929
繰延税金資産	603	591
その他	839	867
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	5,146	5,063
固定資産合計	27,810	27,857
資産合計	57,703	58,973

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,775	4,381
短期借入金	6,400	7,981
未払金	2,974	3,277
未払費用	416	419
未払法人税等	307	221
賞与引当金	569	331
その他	2,431	3,189
流動負債合計	17,876	19,801
固定負債		
長期借入金	9,285	9,037
退職給付に係る負債	3,275	3,246
繰延税金負債	139	139
その他	245	270
固定負債合計	12,945	12,693
負債合計	30,822	32,495
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,666	6,666
資本剰余金	8,943	8,943
利益剰余金	10,404	9,965
自己株式	△706	△691
株主資本合計	25,307	24,884
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	847	803
繰延ヘッジ損益	9	5
為替換算調整勘定	116	180
退職給付に係る調整累計額	△76	△70
その他の包括利益累計額合計	897	917
非支配株主持分	677	676
純資産合計	26,881	26,478
負債純資産合計	57,703	58,973

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	44,745	44,350
売上原価	34,108	33,995
売上総利益	10,637	10,355
販売費及び一般管理費	10,747	10,739
営業損失(△)	△109	△383
営業外収益		
受取賃貸料	129	129
受取配当金	79	85
受取保険金	151	148
その他	152	209
営業外収益合計	512	573
営業外費用		
支払利息	50	63
貸与資産諸費用	35	32
その他	24	16
営業外費用合計	111	111
経常利益	291	77
特別利益		
固定資産売却益	1	2
投資有価証券売却益	1	478
補助金収入	3	—
抱合せ株式消滅差益	76	—
特別利益合計	82	481
特別損失		
固定資産処分損	1	15
投資有価証券売却損	1	3
独占禁止法関連損失	92	—
特別損失合計	95	19
税金等調整前四半期純利益	278	538
法人税、住民税及び事業税	366	357
法人税等調整額	△216	16
法人税等合計	150	373
四半期純利益	128	165
非支配株主に帰属する四半期純利益	180	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△51	164

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	128	165
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51	△44
繰延ヘッジ損益	△43	△4
為替換算調整勘定	8	63
退職給付に係る調整額	△17	6
その他の包括利益合計	△0	20
四半期包括利益	128	186
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△46	185
非支配株主に係る四半期包括利益	174	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. その他

該当事項はありません。